

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 645

事業名	ブランド野菜育苗助成金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	農業振興費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱 まちづくりの目標 施策目標	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり ふやさんが 食づくりの担い手【農漁業】 食づくりの源である豊穡の大地と海を守り、農業や漁業に携わる 市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			南あわじ市補助金等交付規則
該当する事業について「 」を選択		施策的事业		業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		野菜生産農家	対象人数(人) 2,500
		意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 我が国屈指の野菜産地である本市において、農業の更なる発展と、産地の維持・拡大をさせる。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 1. 平成13年度に松帆高屋に、また平成18年度に阿万に設置されたあわじ島農協の育苗センターで育成された野菜苗を利用した農家に対し、セルトレー1枚当たり50円の助成を行う。これにより、農家の育苗に係る労力負担の軽減を図り、産地の規模維持拡大を積極的に推進する。 2. 環境に配慮した農業生産を行い、生産物の高品質化と他産地との差別化を図るために、あわじ島農協ではフェロモントラップの設置による減農薬栽培を推進している。本市では、このあわじ島農協の取組を支援するため、フェロモントラップ設置に係る費用の1/3を補助している(トラップは1個当たり5,620円。継続設置の場合1,700円)。この取組を支援することにより、暑い時期の害虫防除作業が軽減され、農家の栽培意欲の向上と規模拡大の一助となるほか、減農薬による他産地との差別化が期待でき、産地競争力の強化に繋がる。	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 1. 苗助成は、国庫事業により「あわじ島農協育苗センター(松帆高屋)」が平成13年度に設置されたことを契機に、平成14年度から2年間継続事業として100円/枚の助成額で事業が開始された。品質の良い育苗センターの苗は年々需要が高まり、育苗をセンターに委ねることで、農家は本田管理に専念できることから産地の維持・拡大へ大きく貢献している。また、近年、土壌病害(根コブ病・ビクベイン病)が大きな問題となっているが、育苗センターの苗は完全無病土で育苗されるため定植後の初期生育が良好で、良品生産に大きく貢献している。平成16年度からは助成単価が50円に引き下げられたが、本事業が農家の懐具合と産地の維持拡大に大きく貢献していることは依然変わりは無い。 2. フェロモントラップ設置助成は、暑い時期の害虫防除作業の軽減と、減農薬による他産地との差別化を目的に平成9年より実施されている。近年は黄色灯の利用による害虫防除技術も普及しつつあるが、未だ広域的ではなく、トラップは、現在市内に3,000個設置されている。これの設置には、婦人会や農会等地域ぐるみで行っている自治会もあり、この事業が市内に深く浸透していることが分る。トラップは1基当たり6,000円弱かかるため、各農家の負担も割りと大きい。このため、本事業が打ち切られると設置希望者が激減し害虫の増加による産地全体の品質低下に繋がりがかねない。	
事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (あわじ島農業協同組合)		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併協議において、 1. 苗助成は15年度で終了。 2. フェロモントラップ設置補助は、調整方針策定の際に「現行のとおり新市に引き継ぐ」とされた。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	セル成型苗・フェロモントラップ設置数	指標単位 枚・個		
	指標説明 (指標算出方法等)	1. あわじ島農協育苗センターにより生産出荷されたセル成型苗の枚数 2. あわじ島農協から販売・設置されたフェロモントラップの数量			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	38,400	38,400	79,440	79,440
	実績値	43,172	45,258	85,841	
	達成度 (%)	112.4	117.9	108.1	-
	目標値	3,000	3,000	3,000	3,000
	実績値	2,997	2,799	2,708	
	達成度 (%)	99.9	93.3	90.3	-
目標値設定の考え方	上段：セル成型苗 下段：フェロモントラップ				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	野菜作付面積・年内穫りレタス秀品率	指標単位 ha・%		
	指標説明 (指標算出方法等)	統計・あわじ島農協の実績により算出			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	1,641	1,674	1,689	1,704
	実績値	1,641	1,674	1,707	
	達成度 (%)	100.0	100.0	101.1	-
	目標値	67	75	75	75
	実績値	67	70	72	
	達成度 (%)	100.0	93.3	96.0	-
目標値設定の考え方	上段：野菜作付面積 下段：年内(11・12)穫レタス秀品率				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	5,895	5,000	5,000	5,200
	育苗センター苗利用補助金	1,765	2,500	4,000	3,200
	フェロモントラップ設置補助金	4,130	2,500	1,000	0
	健全な土作り推進事業補助金				2,000
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	5,895	5,000	5,000	5,200
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
年間経費([A]+[B])	5,895	5,000	5,000	5,200	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	2.4	2.0	2.0	2.1	
受益者人数(2,500)1人当り経費(千円)	2.4	2.0	2.0	2.1	
経費に関する補足説明					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	112.4	117.9	108.1	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 育苗センター苗利用は目標以上、フェロモントラップ設置数もほぼ目標に近い実績であった。					自己評価 (5点評価)
						3
有効性	成果指標目標達成度	%	100.0	100.0	101.1	-
	成果向上率	%	-	2.0	2.0	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 育苗に関しては農家の労力軽減に大きく貢献し、産地の維持拡大に大変有益である。フェロモントラップは、これ自体の防除効果は非常に高いが、昨年は、例年を大きく超える暑さと害虫発生数のため、野菜の秀品率は思ったほど上がらなかった。					自己評価 (5点評価)
						4
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	0.1	0.1	0.1	-
	効率性増減率	%	-	19.1	47.3	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 現状の規模から見て、補助金額は適当か、少ないと思われる。					自己評価 (5点評価)
						4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 育苗センター育成苗の導入希望は毎年供給可能数量を上回っており、ニーズは非常に大きい。 また、フェロモントラップに関しても、計画に見合うニーズとなっており、現状で適正である。 農業振興は市のスローガン「食が育むふれあい共生のまち」にも掲げられているとおりで、市が事業に関与することは適当であると考えます。					自己評価 (5点評価)
						4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 前述のとおり、農業振興は市のスローガン「食が育むふれあい共生のまち」にも掲げられているとおりで、これ以上の市単独農業振興施策の中止・廃止は、農業への市の関わりを希薄にし、農家と市との間の距離を遠くするほか、農業に立脚した南あわじ市の独自性を曇らせることにも繋がる。					<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>本事業は本市独自のものであり、島内他市や県内でも事例は無い。しかし、食に対する安心安全への世の関心の高まりから、本事業は継続して実施し、南あわじブランドの野菜生産を推進していくことが肝要である。ただし、害虫防除技術に関しては、近年、黄色灯による防除が確立されつつあり、フェロモントラップに関しては今後見直す必要性も考えられる。</p>	<p>育苗センター苗利用促進事業負担金については、補助期間を平成21年度を期限とする。</p>
(現状維持以外の改善方法)	<p>育苗センター苗利用促進事業補助金については、1枚当り補助単価50円を40円に減額した上で継続して実施する。 フェロモントラップ普及促進事業補助金については、行政としての初期目的はすでに達成していると考えられるので、補助金を廃止する。</p>	<p>育苗センター苗利用促進事業補助金については、平成21年度をもって補助金を廃止する。</p>
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
	減額された補助金により新規に「健全な土作り推進事業補助金」を実施できる。	
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>フェロモントラップは1個の設置に対する費用が割合高いため、市の1/3の補助が中止されれば設置を取りやめる農家もかなり出てくると予想される。トラップの設置取り止めは害虫の発生数増加に直結し、害虫防除回数が増加するため、野菜秀品率の低下に端を発して、市場評価の低下・価格の低下・産地競争力の低下・生産農家の販売収入の減少・農家の経営状態の圧迫・防除作業等労力負担の増加・産地の減退へと連鎖して繋がっていく。ただ、害虫防除技術に関しては、近年、黄色灯による防除が確立されつつあり、フェロモントラップに関しては今後見直す必要性も考えられる。</p> <p>育苗センター苗助成では、現在、供給を大幅に超える需要があるため、事業を中止してもセンター苗の需要自体には大きな影響は無いと思われる。しかし、この事業が農家の経営に大きな助けになっていることは前述のとおりで、市の農業振興に大きく貢献している。当市と同様のレタスの産地である香川県観音寺市では、市独自の野菜振興補助施策を持っていない。これが直接的な原因ではないにしても、観音寺市でのレタス作付面積は年々減少の一途であり、この5年間で約1割作付面積を減らしている。</p>	